

来週の聖句は、

『私はぶどうの木、あなた方はその枝である。人が私につながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。』です。

暑かった長い夏が終わり、ようやく過ごしやすい時期になりました。秋の果物に目がない私にとってはとてもうれしい季節です。シャインマスカットや巨峰など、スーパーや直売所には色とりどりのぶどうが、所狭しと並べられています。

ところで、皆さんは、ぶどうの木を見たことがありますか？

幹から枝が伸び、その枝にたくさんの実がなる様子を想像してみてください。

今日、皆さんと分かち合いたいのは、この聖書の言葉『私はぶどうの木、あなた方はその枝である』が、私たちの学校と、そして皆さん一人一人にとって、どのような意味を持つのか、ということです。

本校は、この11月1日に、創立116周年を迎えます。その長い歴史と伝統の中で、多くの卒業生を社会へと送り出してきました。今週の水曜日、1・2年生の皆さんにご講演いただいた、爰野寿美子（ここのすみこ）さんも、そのお一人です。

卒業生たちは、それぞれの場所で、キリスト教の教えに基づいた生き方を実践し、社会に貢献しています。それはまるで、ぶどうの木が、たくさんの枝を伸ばし、成長した果実が、人々に喜びを届けるようです。私たちの学校が社会に良い影響を与えている証と言えるでしょう。

ぶどうの木の枝は、幹から栄養をもらって成長します。

皆さんも、学校という共同体の中で、先生方や友達からたくさんのことを学び、支えられています。日々の授業はもちろん、部活動の時間、友達と過ごす時間などに、困ったり、励まされたり、一緒に喜んだり悲しんだり、さまざまな経験を通して、互いに深くつながり、成長します。

また、保護者の皆さんや過去の卒業生、地域の方々の想いや努力が、今の皆さんを支えてくださっています。このつながりの力は、皆さんを強くし、困難な状況を乗り越える力を与えてくれます。この学校で学んだことを胸に、それぞれが異なる道を選び、様々な場所で活躍する際にも、きっと皆さんを支え続けてくれることでしょう。

そのような中で生活する皆さんは、この大きな木の大切な枝の一つです。そしてその枝には、たくさんの実を結ぶ可能性が秘められています。それぞれが異なる個性と才能を持ち、学校という環境の中で今まさに成長しています。

一人一人が自分の可能性を信じ、周りの人たちと協力し合い、大きく成長してほしいと思います。そうすれば、私たちの学校は、これからも多くの実を結ぶ、素晴らしい木であり続けることができるのではないのでしょうか。